

発行:市議会議員 鈴木克己

令和3年度が始まりましたが、本年度も土屋市政は全く主体性の感じられない市政となってしまうのか？

支援した方々への期待が裏切られているようで残念です。

令和3年度の勝浦市一般会計当初予算額は、88億8千6百万円
ようやく、市長公約の一部を実現するための予算を確保したにもかかわらず、新年度の予算を審議する委員会に於いて、事業内容に対し一部の議員から異議が出され執行内容が変更されました。

新年度予算で執行される市長公約でしたが、...

1)	高齢者タクシー利用料助成事業:令和3・4年の実証期間を令和3年のみに。
2)	ゴミ袋販売補助事業:ゴミ袋販売価格を下げるために販売業者(2社)に補助金を出しての対応予算であったが、再検討することとなった。
3)	学校給食費補助事業:一般財源をもって、小中学校給食費を半額補助することで予算が組まれましたが、昨年同様にコロナ対策交付金で対応することに変更されました。半額補助に変わりはありませんが、コロナ対策交付金が無くなれば、事業の継続は無くなるのが危惧されます。
4)	上水道高料金対策事業:県の補助金(1,800万円)と市からの補助金(2,500万円)を水道事業会計に繰入れることになりましたが、水道事業の赤字補填に充てるため、本年度の水道料金の減額は行われません。 昨年度、半年間実施した、基本料金半額補助も今年度は無くなりました。

市議会トピックス

市長の給与の特例に関する条例案 (賛成多数で可決)

本年4月から令和5年7月までの市長任期期間の給与額を20%減額

1)	令和元年9月議会に於いて、市長の任期(令和5年7月まで)期間における給与額を、市長20%、副市長及び教育長を各10%削減条例が制定される。
2)	令和2年6月に、これを全面的に廃止し、令和2年度に限り新型コロナウイルス対策の財源に充てるためとして、市長、副市長、教育長の給与を30%の減額
3)	令和3年4月より市長は、公約なので20%減額。副市長、教育長減額なし。

この結果により、令和3年4月より令和5年7月までの3役給与額は、

市長640,000円・副市長650,000円・教育長610,000円となります。

緊急事態です。!!

市の財政が厳しい中、海中公園の一部を整備するための事業費を含む補正予算が賛成多数で可決され、事業を行うことになりました。

市の財政は非常に厳しい状況なのに、市費から2億円の支出

疑問1	海中公園は市単独の観光施設ではない。そこに、なぜ市の予算で施設を建設しなければならないのか。
疑問2	この建設だけでなく、この先にさらに3回12億円をかけて勝浦市が事業を行うとのことだが、具体的説明は無い。
疑問3	施設全体は40年経過している。リニューアルするのであれば全体改築計画を県及び関係機関で十分に検討すべきではないのか。

(仮称)かつら海中公園再生計画事業

令和2年7月17日	計画案(勝浦市再生プロジェクト＝海中公園の休憩所改築案)を国に提出。結果として2億円の交付金が内定。
令和2年11月27日	(12月議会開会直前)海中公園再生計画の説明があり、基本設計業務委託料として500万円を予算化。
※7月に国に計画案を提出したのに、11月27日まで市議会や市民に何ら説明なし。しかも、主体である海中公園センターには説明のみで協議を進めていなかったようです。	
令和3年1月18日	設計業者を選考する※プロポーザルにより熱海市に本社のある(株)石井建築事務所(熱海事務所)に決定し基本計画を策定。
令和3年2月24日	基本設計の中間報告として、石井建築事務所同席で説明がありましたが、3月議会開会までの時間が非常に短く、検討する時間もない。基本設計された建物は、1階がカフェと物販、外部に足湯・3階がほぼ露天の温浴施設でした。

改築予定の場所



改築関連費は4億円

改築事業費は、
国からの地方創生拠点整備交付金(2億円)と、
市費(市債＝市民の借金)(2億円)。

※プロポーザルとは？

プロポーザル方式は、主に業務の委託先や建築物の設計者を選定する際に、複数の者に目的物に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定すること。「プロポーザル(proposal)」は「企画、提案」の意味。

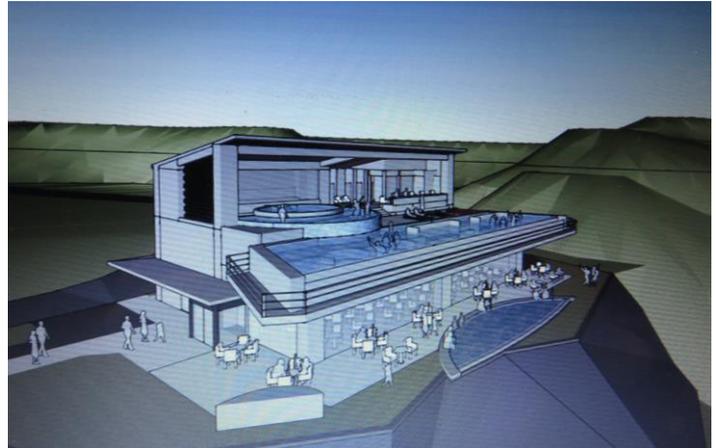
この計画を市民の皆さんは、どのように考えますか？

この事業は、令和4年3月までに完成させることが、条件となっています。

管理運営は指定管理者制度により民間の事業者へ委託し行う予定とのことです。業務委託する条件は現在決定されていないとのこと。

基本設計で示された外観イメージ

基本設計の各階面積	
敷地面積	1, 347.19㎡(407.49坪)
1階内部面積	292㎡ (88坪)
1階外部面積	150㎡ (45坪)
2階	機械室
3階内部 (屋根下) 面積	150㎡ (45坪)
3階外部 (屋根外) 面積	243㎡ (73坪)



1階はカフェと足湯・3階は露天温浴施設

事業費4億円の内訳

建設工事設計業務委託料	2, 200万円	・	工事監理業務委託料	950万円
滞在型観光施設建設工事費(新設工事費・解体・外構含む) 3億6, 800万円				
※ 現在、この4億円事業をプロポーザルにより一括で発注する手続きを進めている。				
建設工事の入札を行わないこの方式は、工期に制限がある場合などに主に民間で行われているが、公共の事業に対応させるには如何なものかと思う。				

営業数値設定 年間365日営業 (あまりにも現実離れしている数値である)

1	営業時間は、9:00~18:00	
2	温浴エリア	利用料金1名1, 200円を想定し、1日平均利用人数を90人。 年間利用者数: 90人 × 365日 = 32, 850人
3	カフェ・物販	1日平均利用人数170人。年間利用人数62, 050人

温浴施設は、水着での利用。湯水は、市の水道を使用。施設は屋根の無い露天です。

営業1年目の数値目標		(基本設計に示された想定数値)	
項目	一人当たり	利用者数	売上金額
入浴売上	1,200 円	32,850 人	39,420 千円
タオル等売上	50 円	32,800 人	1,640 千円
カフェ売上	1,200 円	62,050 人	74,460 千円
物販売上	100 円	62,100 人	6,210 千円
売上合計	①		121,730 千円
売上原価	②		30,110 千円
売上総利益	③	①-②	91,620 千円
営業コスト	④		85,210 千円
営業利益		③-④	6,410 千円



3月31日公表された
(仮称)かつら海中
公園地域再生計画

3月議会での主な質問と回答

Q1	何故、今、市独自で海中公園の再生整備なのか。	 <p>討論・採決</p>
A1	市長:市の観光拠点として素晴らしいものになる。海中公園に時代にマッチした新たな息吹を吹き込む。	
A2	副市長:(昨年7月に)片山さつき氏が来訪された際に、海中公園を視察し、交付金を使ってここを何とかしたら良いとの助言を受け実施するに至った。	
Q2	何故、温浴施設としたのか。	
A2	副市長:足湯だけでは収益が少ないので、温浴施設が良いと思い追加した。	
Q3	利用者数・営業日の見込み根拠の説明に納得できない。本当に入ると思うのか。	
A3	副市長:海中公園入込も8万人ある。それを参考に、この施設を6万人は利用する。利用者一人2,050円消費すると試算した。	

採決の結果は、**反対者4名**(鈴木・磯野・狩野・戸坂):賛成者10名。

採決前の討論は、市議会史上初の賛成3名、**反対3名**の6名が行いました。

磯野典正議員の**反対討論要約**

勝浦の将来を考えた時、本当に必要なものか疑問に思う。今回の計画を初めとして、今後4期で16億円の事業を計画されているうちの半分は市負担である。勝浦市には他にもたくさんの課題が山積しているなか、交付金ありきの先が見通せない事業計画の箱ものではなく、勝浦の価値を創造し、情報技術と共有すべきである。

狩野光一議員の**反対討論要約**

計画に対しての議論が浅い。有識者を含めて検討すべきであり議論が尽くされていない。また、採算性に対しての疑問と影響については、採算数値に無理がある。負債もあり赤字になった場合の負担は誰がするのか。将来に渡り、今の子供たちの負担になる。議論の継続性が必要であることから、一度立ち止まり再検討することが必要である。

鈴木克己の**反対討論要約**

この海中公園は、これまでの40年間に於いて、リニューアル対策に手を付けていないものを、国から2億円の交付の約束を取り付けたので施設建設を行うとの決定は、**これを容認できるものではない。**

海中公園は、千葉県と、新勝浦市漁協及び勝浦市の3団体が出資母体であり、(財)海中公園センターが運営母体である。今回の事業を慣行するのではなく、新たに海中公園再生のための検討委員会などを立ち上げ、休憩場施設改修の前に、**老朽化している海中展望塔をリニューアルすることが第一**であり、関係者による協議検討を重ね、将来に向けて行動を起こすべきであると思う。

今回提案されているかつら再生計画での海中公園の一部施設を、何故勝浦市が市債2億円を充てても独自に建設しなければならないのか。**これを許せば、将来に対する大きな禍根を残すこととなり、将来にわたり市の財政を圧迫する施設となります。**このため、市が行うべき市民生活に直結した事業やインフラ整備等への予算が減少することになります。

勝浦市議会議員 : 鈴木かつみ事務所

電話 : 0470-76-3232

鈴木 克己 (090-1428-6135)

FAX 76-2209

植野1448

この記事に関しご意見をください。問い合わせは、電話・FAX又はメールp_mint@live.jpで